

総合的な学習の時間 「研究の実践」

■5年 課題研究：創造 I

(1) 概要

現代社会では、自分に関する物事や、人間、社会や自然といった世界に関する物事について問題意識を持ち、問題の改善について多面的に思考を進め、建設的な考えや思いを持つことが求められる。ただし、多くの場合、問題の改善について唯一絶対の正解はない。より妥当な考えを求めて、自他の考えを比較し、検討する必要がある。さらに、価値観や立場の多様化が進んでいる。多様性を認めようとするあまり、お互いが自分の考えの中に閉じてしまい、問題意識や、その問題に対する考えを共有することが難しくなっている。共有できなければ、比較や検討もできない。各自の考えに固執することは、問題の解決を阻む一因になる。そのため、問題意識、考えや思いを他の人と共有するための論理的表現力や創造的表現力が求められる。もちろん、他の人に賛成はしてもらえないかもしれない。しかし、表現活動を通じて他の人へ働きかけることが、自他が関係を持つ第一歩ともなる。この第一歩が、賛成まではできないが共感・共有はできるとする柔軟な態度、より妥当な考えを求めてお互いの考えを比較、検討しようとする態度へとつながる。このような態度が、問題を改善に向かわせる原動力となる。

このような現状認識に立ち、創造 I では、自分や世界についてももの見方、感じ方、考え方を深めるとともに、文章・音楽・美術・書で論理的に、創造的に表現する能力を高めることによって、社会生活の充実を図ろうとする態度を育てる。また、表現について、自分だけに閉じるのではなく、相互評価を行うことで、自分の表現に役立てるとともに、自分や世界についてももの見方、感じ方、考え方を広げようとする態度を育てる。

(2) ねらいとする能力・態度

創造 I では、クリティカルシンキング、論理的表現力・創造的表現力の育成をねらいとする。

クリティカルシンキングとは、自分や世界の物事について問題意識を持ち、その問題について多面的に思考を進め、考えや思いを深めようとする能力・態度である。

論理的表現力とは、自分の考えを根拠にもとづいて主張する能力・態度である。また、表現の目的や相手にあわせて、内容、構成や表現の仕方を工夫、選択する能力・態度である。そのためには、論理的表現に求められる内容や構成に関する知識が必要である。

創造的表現力とは、主題を目的や相手にあわせて効果的に表現するために、内容、構成や表現の仕方を工夫する能力・態度である。そのためには、創造的表現の表現方法について知識が必要である。

表現するためには、表現内容にあたる考えや思いが必要である。クリティカルシンキングは表現内容を広げ深める思考力であり、論理的表現力と創造的表現力はその内容を適切に表現する力である。この点で二つの能力・態度は密接なつながりを持つ。

(3) 年間指導計画 (35時間扱い)

月	単元名	学習のテーマ・ねらい	学習の具体的な内容
	【単元名】 論理的表現を学ぼう	1, 論理的な表現とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的表現の必要性について理解する。 ・意見文とレポートの具体例をもとに、論理的表現が大体どのようなものであるかを理解する。 ・練習として、意見文を読み、その意見文に説得力があるかどうかを評価する活動を行う。
	【単元の大体】 自分の考えを、論理的に表現することについて学	2, 問題を設定してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的表現を行うには、その第一歩

並

<p>ぶ。</p> <p>論理的表現に必要な内容や構成について学ぶとともに、表現活動の第一歩である問題意識について、問題発見の方法を学ぶ。その上で、意見文を書いたり、レポートの構想を練ったりする。</p>	<p>3, 小論文（意見文）を書く練習をしよう（1）</p> <p>4, 小論文（意見文）を書く練習をしよう（2）</p> <p>5, レポート入門（1）</p> <p>6, レポート入門（2）</p>	<p>として問題意識を持つことが大切であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題構造図を学び、問題意識を整理する方法を理解する。 練習として、イメージマップを用いて、問題を発見する活動を行う。 小論文（意見文）の内容と構成について理解する。 執筆の前段階で必要となる構想案の書き方について理解する。 練習として、課題文を読み、自分の考えを構想案にまとめる活動を行う。 練習として、構想案をもとに、600～800字の小論文を書く活動を行う。 書き終えた小論文を読み合う。 レポートの内容と構成について理解する。 レポートを書く手順について理解する。 レポートの構想案の書き方について理解する。 練習として、自分が将来進もうと思っている分野について、イメージマップを用いて問題を発見し、問題の構造図を書く活動を行う。 レポート入門（1）の活動を継続する。問題を発見し、問題構造図を完成させる。 	<p>行 読 書</p> <p>木 下 是 雄</p> <p>『 レ ポ ー ト の 組 み 立 て 方 』</p>
<p>【単元名】 声と音楽，言葉と音楽 — サウンドロゴを創ろう —</p> <p>【単元の大体】 普段あまり自覚することのない身の回りの音，声や音楽について目を向けさせる。 CM音楽では，商品名や会社名にどのような音楽が</p>	<p>1, 音とは何か？</p> <p>2, 発声のメカニズムを探る</p> <p>3, さまざまな発声や歌声</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音は空気の振動であることを踏まえ，二つの音叉を使って「うなり」や「共鳴・共振」を体験する。また，音の三要素である音の高さ（周波数）・大きさ（音圧）・音色（音質）について考察する。さらにピタゴラスの音階に触れ，平均律と純正調のハーモニーの違いを実際に聴いて確かめる。 人間が声を発するためには呼吸器官（気管・肺）・発声器官（声帯）・共鳴器官（共鳴腔）が複雑に関係するが，それらの働きを映像を通して見る。その上で腹式呼吸のコツやよりよい発声の方法を体験する。 世界中には民族や地理・歴史・文化の違いによるさまざまな発声や歌い方がある。それらを鑑賞したり，その中のいくつかを実際に演奏したりすることで，自分の持つ声 	

つけられているかをグループで調べる。その上で、CMの言葉と、それに対応する音楽を創作し、発表し合う活動を行う。	4, 楽譜とは何か?	<p>の可能性を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 五線譜や音符を使わずに自分だけのオリジナル楽譜を作る。その過程で言葉の抑揚とメロディーとの密接な関係に気付かせる。課題として各グループに一台ボイスレコーダーを貸し出し、次回までにさまざまなCM音楽を採取してこさせる。
	5, サウンドロゴを創ろう	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで採取してきたCM音楽（サウンドロゴ）を全員で聞き、言葉とメロディーとの結びつきを確認する。次に各自でサウンドロゴに使う言葉を考え、次回までに自分で歌ったものを録音してくる。
	6, サウンドロゴの発表と全体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 各自が録音してきたサウンドロゴをグループで聞き、その中からインパクトがあり印象に残るものをいくつか選んでグループごとに発表し、全員で評価する。最後に授業の全体を振り返り、まとめを行う。
<p>【単元名】 既成概念を覆す新しい表現</p> <p>【単元の大体】 既成概念を覆す新しい表現をした現代美術をとりあげ、作者の考えが重要であることを学ぶ。その上で、現代社会をめぐる諸問題について考え、それらの問題を人々に訴えかける芸術作品の構想案を練る。</p> <p>同時に、自他の構想案を相互評価する中で、他の人の表現方法に学ぶとともに、自分とは違う考えや価値観を尊重することの大切さを学ぶ。</p>	1, 現代美術のはじまり (1)	<ul style="list-style-type: none"> デュシャンやフォンタナなど現代美術を作り上げた作家たちを取り上げ、社会の問題点と作品の関係について理解する。
	2, 現代美術のはじまり (2)	<ul style="list-style-type: none"> アクションペインティングのVTRを鑑賞し、制作風景も作品の一つとした考え方や、鑑賞者に幅広い想像力を持たせる作品であることを知る。
	3, 現代の芸術家	<ul style="list-style-type: none"> 小沢剛の「ベジタブルウェポン」を例に挙げ、戦争やテロに対して、どう作品を作るか、自分で構想を練るための方法を理解する。
	4, 構想画 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題について、戦争やテロ、環境問題、個人情報流出、スマートフォンのマナーのような問題点を新聞記事などを用いて、テーマとして決めていく。
	5, 構想画 (2)	<ul style="list-style-type: none"> どのような作品にすれば、その問題を多くの人に訴えかけることができるか、絵画・彫刻・ポスター・立体作品など構想を練り、スケッチをおこなう。
	6, 鑑賞会とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の作品をグループで鑑賞し合い、グループの中で発表者を決め、グループ内で話題になった作品などをクラス全体に発表する。 蔡国強の原爆をテーマにした作品を取り上げ、視覚だけでなく、体感的に鑑賞できるものなど、強く心に残るような芸術表現を知り、世界で活躍する芸術家の作品について

			て、グループで意見交換をおこなう。
<p>【单元名】 いろいろな文字で 名前を書こう</p> <p>【单元の大体】 文字が生まれた 歴史的背景や地理 的背景を学ぶこと で、文字について 幅広い知識を身に つけ、見方を広げ る。その上で、一 番身近な文字と言 える自分の名前 を、文字を工夫し ながら書くこと で、表現方法につ いて考えを深めて いく。</p> <p>また、名前を書 くことと並行して 身のまわりにある 面白い形の文字を 収集する。そのこ とで、書体への関 心をより高めてい く。</p>	1, ヒエログリフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒエログリフを中心に書字方向（右から左への縦書き・左から右への縦書き・左から右への横書き・右から左への横書き）のあり方や、それに起因する文字の左右の反転などを学ぶ。それをもとにローマ字化したヒエログリフで名前を書く。 	
	2, ゴシック体	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥の羽ペンが使われていた時代の、いわゆる本来のゴシック体を見ていく。楽譜も同じペンを使ったので音符の形が決定したであるとか、楔形文字の楔形はどのようにして生まれたのかというような、用具と文字の必然も学ぶ。その後、ゴシック体で名前を書く。 	
	3, 甲骨文から篆書・隸書	<ul style="list-style-type: none"> ・甲骨文の書字方向やそれによる文字の反転の例を見ながら漢字のルーツを学ぶ。簡単な甲骨文なら読めることを通して、漢字の歴史は途絶えることなく現在に流れていることを確認する。甲骨文では難しいので、篆書・隸書で筆ペンを使って名前を書く。 	
	4, 印刷の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷によって文字の歴史のみならず、宗教や芸術がヨーロッパにおいて大きく変動したことを学ぶ。それまでに文字のデザインはもちろんあったが、活字を作る必要から様々なデザインが生まれ、それが現在のフォントのもとになっていることを理解する。いくつかのフォントで名前を書いてみる。 	
	5, サインを創る（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・表意文字である漢字と表音文字であるアルファベットや平仮名の違いを理解し、なぜ中国ではヨーロッパより活版印刷が早く行われていたのに歴史を変える程には普及しなかったのかなどを考える。その後、新しいフォントを創ったり、サインを考える。 	
	6, サインを創る（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・前回に引き続き、特にいろいろな漢字の書体を調べたうえで、サインを考え組み合わせなどを工夫してまとめる。最終的には筆ペンで仕上げていく。 	